

マルコの福音書 10 章 32-45 節 イエスに従い、自らをささげる

紀元後 312 年 10 月 28 日、コンスタンティヌス帝はミルウィウス橋の戦いでマクセンティウス帝を破り、ローマ帝国の分割統治を終わらせ、唯一の支配者となる道を歩み始めました。それ自体重要な出来事でしたが、キリスト教にとってはさらに重要な意味がありました。この戦いの中でコンスタンティヌスは「*in hoc signo vinces* (これにより汝は勝つべし)」というラテン語の言葉と共に、十字架の幻を見たと言われているのです。その後、313 年に、コンスタンティヌスがミラノ勅令によりローマ全土でキリスト教を公認し、歴史の流れが完全に変わりました。クリスチャンの信仰は、数世紀にわたり洞窟の中や家の中で迫害の脅威にさらされながら存続してきましたが、いまや貴族の宗教にもなりつつあるのです。そして死の象徴であった十字架は権力の象徴となり、やがてローマ・カトリック教会がヨーロッパと世界の歴史を形作っていくこととなります。その歴史も神の摂理に導かれ神の主権の下にあったものだとしても、私たちは問うてみる必要があります。十字架とは、実にヨーロッパの歴史を動かしてきたような権力の象徴なのか、それとも全く別のものを表しているのか。今日の聖書箇所であるマルコの福音書 10 章 32~45 節で、イエスは、この問いへの答えを示しています。ここで、キリストの弟子である真の印は、権力ではなく、自らをささげることで示されているのです。

まずはマルコの福音書 10 章 32~34 節を読みましょう。

³² さて、一行はエルサレムに上る途上にあつた。イエスは弟子たちの先に立って行かれた。弟子たちは驚き、ついて行く人たちは恐れを覚えた。すると、イエスは再び十二人をそばに呼んで、ご自分に起ころうとしていることを話し始められた。³³ 「ご覧なさい。わたしたちはエルサレムに上って行きます。そして、人の子は、祭司長たちや律法学者たちに引き渡されます。彼らは人の子を死刑に定め、異邦人に引き渡します。³⁴ 異邦人は人の子を嘲り、唾をかけ、むちで打ち、殺します。しかし、人の子は三日後によみがえります。」この聖書箇所の冒頭では、イエスがご自分の目的に向かって先頭を歩いていることがわかります。十字架にますます近づいていくエルサレムへの旅路には、これまでも焦点があてられてきました。しかし今日の聖書箇所では、この福音書の著者マルコは、聖霊の靈感の下で「イエスは弟子たちの先に立って行かれた」という細部を描写しています。読み飛ばしてしまいそうな文ですが、イエスが先に立っていることをマルコが描写しているのはここだけです。ここにはイエスが、ご自分の生涯における第一の、そして究極的な目的を果たすための目的地に向かう決心が示されています。その目的とは、権力、名声、快適さのうちに生涯を送ることではありませんでした。

固い決意を持った様子のイエスの足取りに、イエスの弟子や、そのほか彼についてきた人々は、少し恐ろしくなっていたはずですが、さきほどの聖書箇所ではイエスが 3 回目にして最後に、間もなくイエスがエルサレムに入ると何が起こるかを述べていることも、恐れを抱く理由だったでしょう。イエスはここで、これから起ころうとしているご自身の死と復活について、最も詳しく述べられています。イエスの目的はいけにえとして死ぬことであり、イエスはここで、それがまったく愉快なものではないということを、はっきりさせているのです。イエスはまた、誰が彼を十字架につけるかも明らかにしています。イエスを死刑にするために、祭司長たちや律法学者は、イエスをローマの総督に引き渡します。ユダヤの指導者たちは、誰に対しても十字架刑を執行することができなかつたため、このようにしてイエスを十字架につけさせたのです。そして、十字架刑の際に、兵士たちがイエスを嘲り、唾をかけている様子が述べられています。イエスがこのように、兵士たちの行動までも詳しく予言していることで、後にマルコの福音書 15 章で、イエスの弟子でない人間が初めてイエスの真の身分を認める場面が、より意味のあるものになります。マルコの福音書 15 章 39 章には、次のように書かれています。³⁹ イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。「この方は本当に神の子であつた。」しかしそこにたどり着くまでに、数々のことが起こらなければなりません。そしてイエスに最も近かった弟子たちは、イエスがメシアであると信じてはいながらも、イエスご自身が教えてきたメシアの姿は拒み続けていました。イエスがやがて来るご自分の死について弟子たちに説明する 3 つの場面全てにおいて、弟子たちはそのあと、イエスがご自分をいけにえとしてさ

さげようとなさっていることではなく、自分たちの利益について話しています。今回も例外ではありません。

そして今回の場合、イエスの弟子、イエスにつき従う者が、権力を持つこととイエスの目的を混同しています。35~37節を読みましょう。³⁵ **ゼバダイの息子たち、ヤコブとヨハネが、イエスのところに来て言った。「先生。私たちが願うことをかなえていただきたいのです。」**³⁶ **イエスは彼らに言われた。「何をしてほしいのですか。」**³⁷ **彼らは言った。「あなたが栄光をお受けになるとき、一人があなたの右に、もう一人が左に座るようにしてください。」**ヤコブとヨハネが、イエスがご自分の王国を築くとき、イエスと共に権威と権力のある地位に就かせてくれるようにとイエスにお願いをしにきたことが書かれています。その直前にイエスが言われたことを考えると、彼らの反応、彼らの言っていることは意味をなしません。もちろん、これまでも、このような理解の欠如は見てきました。しかし11章の冒頭でイエスがついにエルサレムに入るところで起きようとしていることを考えると、イエスが、ご自分は死ぬために来たのだ、と言われたのに、それがいつも弟子たちの頭に入らない理由がもっとよくわかるかもしれません。弟子たちが周りを見回せば多くの群衆がいたので、イエスが述べられていることなど起きるはずがない、このいつも近くにいる群衆たちがイエスから離れることがない限り、起こりようがないと思えたのです。弟子たちの頭の中では群衆はイエスの見方だったので、そういうことが起こり得ると思えなかったのです。彼らが行く先々で、人々はイエスを見たがりました。エルサレムに入るとき、群衆がイエスをメシアとして歓迎したことも、彼らの思いこみを大きく後押ししました。しかし群衆が歓迎したのは彼らが想像したメシアであって、神のみこころに基づくメシアではありません。人々は、勝利者として街に入ってくる強力な王を望んでいました。そしてイエスがその実現に向かっていると、信じ切っていたのです。ですからヤコブとヨハネは、そのようなメシアの王国の実現が近く、自分たちがイエスに最も近い2つの権力の座にふさわしいと考えたのです。もちろん、イエスに最も近い弟子は3人いました。つまりヤコブとヨハネは、彼らの要求においてペテロを切り捨てているわけです。これは単なるペテロに対する軽視ではありません。イエスご自身に対する利己的で無神経な行動であり、また実に、ほかのすべての弟子たちに対する侮辱です。イエスの目的は、いけにえとしてご自分をささげることでした。しかしこの2人の弟子は、イエスの目的は権力であり、自分たちは権力を追求することで神の目的に従っていると考えていたのです。彼らはイエスに敬意を示そうとはしていたことに着目してください。イエスを中心人物として扱っています。彼らにとっては、そうなることが、イエスの目的でした。しかしイエスに敬意を示す中で、彼らは自分たちも尊敬を集めようとしていました。ここでのヤコブとヨハネは、今日でも教会において起こり得る、大きな問題を劇的な様子で例示しているのです。礼拝や弟子訓練には、罪深い形で自己利益の追求やプライドが入り込むことがあります。さらに悪いことには、自己利益やプライドが、礼拝や弟子訓練そのものによって偽装されることがあります。例えば、長老が、自分が思い描くリーダーの栄光を求め、自分に注目を集めようとし、教会を導くことにより自分の自尊心を満足させようとするようなことです。

キリストの死と復活の後明らかになるのは、キリストが地上に築き始めた神の御国は、権力と支配ではなく、仕えること、与えることに基づくものだということです。今日でさえ、一部の教会が築き上げた「帝国」のようなものの規模を考えると、私たちもそのことを忘れていて、または誤解していると言えると思います。コンスタンティヌス帝をきっかけに、地上の教会は数百年後には王や支配者の戴冠を行うような強大な権力を持つようになり、金や貴重な芸術品で飾られた巨大な大聖堂を建てましたが、これはイエスが築く御国の始まりではありませんでした。いつか完全に実現する神の国は、神の真の栄光のうちに永遠に存在することになりますが、この地上では、神の国は人間の権力ではなく、自らをささげること、そして仕えることの上に築かれつつあるのです。その理由は、キリストが築き始めた御国は、キリストの権力ではなく、キリストが自らをささげたことによりもたらされたという事実にあります。キリストは、ローマの軍隊を征服したのではなく、十字架の上で自らをいけにえとしてささげること、罪からの贖いと解放を成し遂げたのです。その400年後、ローマ帝国がその十字架を掲げ、勢力を拡大するために利用

したというのは皮肉なことです。サタンは、神の国について、何百万の人々をだまし、神の目的を達成する手段は権力であると誤解させたのです。

一方、今日の聖書箇所終わりにかけて、イエスがご自分の言葉でご自分の目的を説明しています。38節から読みましょう。³⁸ しかし、イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、自分が何を求めているのか分かっていません。わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができますか。」³⁹ 彼らは「できます」と言った。そこで、イエスは言われた。「確かにあなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることになります。⁴⁰ しかし、わたしの右と左に座することは、わたしが許すことではありません。それは備えられた人たちに与えられるのです。」⁴¹ ほかの十人はこれを聞いて、ヤコブとヨハネに腹を立て始めた。⁴² そこで、イエスは彼ら呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているとおりに、異邦人の支配者と認められている者たちは、人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています。⁴³ しかし、あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。⁴⁴ あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。イエスの死に関する予言の最後となるこの3つ目の予告が、最初の2つの予告と大きく異なるのは、イエスが、これから起ころうとしているご自分の死と復活の目的を明確に語っている点です。45節で、イエスはご自分の目的は身代わりのいけにえとなることであると宣言しています。身代わりの、というのは誰かの代わりに、という意味です。イエスは、このような形でいけにえとなります。「多くの人のための贖いの代価」としてご自分をささげる、ということです。しかしこの目的を宣言する前に、イエスは2人の弟子に応答しています。ヤコブとヨハネ、そしてほかのすべての弟子も、イエスの目的は権力を得ることであると考えていて、何よりも喜んでその目的に関与していました。イエスと同じ杯を飲み、同じバプテスマを受けることができると言ったとき、彼らは自分たちが答えている内容を理解していませんでした。彼らは、力への道は、迫害と死を通していくものであると理解していなかったのです。しかもイエスは、ご自分の犯した罪に値する罰を受け十字架につけられたのではなく、私たちのような罪人のために、進んで杯を飲み、自らをいけにえとしてささげるのです。マルコの福音書をもう少し読み進めると、14章36節で、イエスは父なる神に向かって祈り、「アバ、父よ、あなたは何でもおできになります。どうか、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの望むことではなく、あなたがお望みになることが行われますように。」と言われます。イエスは、この杯を受け入れ、十字架の上で死ぬことによって、父が望まれることを行おうとされています。そしてイエスは、誤解を抱いていた弟子たちに、彼らがイエスに従うなら、彼らも父の望みに従い、同じ苦しみの杯を飲むことになるのだ、と教えておられるのです。

彼らはこの時点ではまだ知りませんでした。ヨハネを除いた使徒は全員、人々にイエスが彼らを罪から救うために死んだと宣べ伝えるために、自らの命をささげて死ぬことになりました。イエスは、ご自分に従う者の人生について、権力を約束されるのではなく、確実に苦難を経験することになる、と言われたのです。最終的な復活を経た天でのイエスの右と左の座はご自分が与えるものではないと言われていますが、キリストにつき従う者として、キリストの苦難にあずかる機会を与えられています。マルコの福音書の中にもその言葉が多く記録されている使徒ペテロは、この苦難について、後に次のように書いています。ペテロの手紙第一4章12~13節に、次のようにあります。愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っははいけません。¹³ むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。ヤコブとヨハネは、イエスの権力にあずかることが自分たちに喜びをもたらすと考えていましたが、聖霊は使徒ペテロを通して、究極的に喜びをもたらすのはキリストの苦難にあずかることであると明らかにしています。ヤコブとヨハネは、キリストから彼らの願いを否定されて傷ついたことでしょう。特に、彼らの望むものの代わりに苦難を与えられると言われているのだとわかればなおさらです。しかしヤコブとヨハネは、自分たちの願いがどれほど愚かであったかを理解していませんでした。イエスのほかに、私たちの誰も、栄光の御座につく

ことはできません。私たちが願い求めることを、神が本当にすべて与えてくださったとしたら、私たちの人生はどうなると思いますか？私たちの願いは、すべてが聞き入れられるべきではありません。神は私たちが必要とするもの、そして神ご自身の栄光を最も現し、究極的に私たちの益となるものを与えてくださいます。それは短期的に愉快的なこととは違うかもしれません。

ヤコブとヨハネがイエスに話していたことを聞いて、他の弟子たちは当然、腹を立てました。しかしイエスはこの機会を利用し、ヤコブとヨハネにいけにえとしてご自分をささげるというキリストの目的を理解させるだけでなく、弟子すべてにこの真理を理解させようとしています。ほかの弟子たちは、ヤコブとヨハネほど自分たちの栄光にこだわっていなかったというわけではなく、彼らのように自分たちの願望を声に出してはいなかった、というだけなのです。イエスは、権力と権威についての見方こそ、ご自分が築こうとしている御国の倫理体系とこの世の倫理体系が最も大きく衝突するところであると明らかにしています。42節においてイエスは、次のように世のありかたを示しています。「あなたがたも知っているとおおり、異邦人の支配者と認められている者たちは、人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています。」世にとって権力とは、他者を犠牲にして利己的に益を得るためのものです。イエスは、この世では誰もが常にこのように行動すると言っているのでしょうか？もちろん違います。しかし、「権力は腐敗する。絶対権力は絶対的に腐敗する」という格言は、社会と歴史を見てみると、真実であるようです。しかしキリストにつき従う者にとっては、43節に「しかし、あなたがたの間では、そうであってはなりません。」とあるとおおり、権力と権威のあり方が異なります。続いて、「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。⁴⁴ あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。」とある点が、イエスがご自分に従う者に命じる、異なるあり方です。もしリーダーになりたいと思うなら、仕えなさい。あなたが導きたい人々のために自分の権利を差し出し、しもべのようになりなさい。それが神の国において仕えること、リーダーシップです。私たちは、なぜそうするのでしょうか。なぜなら、主イエスご自身が、自ら模範を示しておられるからです。⁴⁵ 「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人々のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」キリストに従う者の生き方は、権力を求めるのではなく、自らをささげていく生き方です。なぜなら、私たちの救い主が、私たちのためにご自分をささげてくださったからです。そして今日ここにいらして、まだキリストに従う者となっていないすべての皆さんに知っていただかなければならないのは次のことです。イエスが自らをいけにえとしてささげて代価を支払ってくださったことにより、私たちが贖われること、これを経なければ、私たちのいのちがこの地上での短い人生を越えて真に意味を持つことはないのです。ヘブル人への手紙 10章 10節に、この代価について書かれています。¹⁰ 「このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだを、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。聖なるものとされること、聖化とは、神が私たちがイエス・キリストへの信仰に基づき義と認めてくださり、そして神の目において聖なるものとされていくことです。私たちが自分の罪を悔い改め、イエスに主であり救い主として従うとき、イエスは私たちの贖いのための代価となってくださいます。そしてヘブル人への手紙 10章 17節には、イエスが代価を払って贖った者に対し、神は「わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない」と言われると書かれています。イエスに従い、自らをささげる道を行きますか。常に社会の部外者となり、イエスの名のために迫害すら受けることができますか。キリストは、私たちのためにすべてをささげてくださいました。あなたは、キリストのために何をささげますか。祈りましょう。

Mark 10:32-45 The sacrifice of a follower

On 28 October AD 312, Emperor Constantine won the Battle of Milvian Bridge against Emperor Maxentius and began his path towards ending the triple monarchy and becoming the sole ruler of the Roman Empire. While that was significant in itself, for Christianity, it was even more significant; because it was in that battle that Constantine claimed to see a vision of the cross with the Latin words “*in hoc signo vinces*” – “in this sign conquer.” After this, in 313 AD Constantine legalized Christianity by the Edict of Milan throughout the Romans empire and completely changed the course of history. Christianity that had existed for centuries in caves and homes, under threat of persecution now became the religion of the nobles. The cross became a symbol of power rather than a symbol of death and eventually the Roman Catholic Church would shape the history of Europe and the world. While that history was by God’s providence and under his sovereignty, we should ask ourselves the question, does the cross really represent power in the way that shaped Europe or does the cross represent something else entirely? Jesus gives us that answer in our passage today, Mark 10:32-45, where we see that **the true sign of a follower of Christ is not power but sacrifice.**

Let’s begin studying this passage by reading verses 32-34 of Mark 10. **32 And they were on the road, going up to Jerusalem, and Jesus was walking ahead of them. And they were amazed, and those who followed were afraid. And taking the twelve again, he began to tell them what was to happen to him, saying, “See, we are going up to Jerusalem, and the Son of Man will be delivered over to the chief priests and the scribes, and they will condemn him to death and deliver him over to the Gentiles. 34 And they will mock him and spit on him, and flog him and kill him. And after three days he will rise.”** As this passage begins, we see that **Jesus is leading the way towards his purpose.** Again we see this ongoing focus on the path they are taking to Jerusalem that is leading ever closer to the crucifixion. But this time in a small detail, the Gospel writer Mark through the Holy Spirit tells us that “**Jesus was walking ahead of them.**” Now at first thought you may just want to pass by this phrase, but this is the only time Mark describes Jesus leading the way. It is showing his determination to go to his destination, toward the primary and ultimate purpose of his life. And that purpose is not to a life of power, prestige and ease.

His determined pace must have caused his disciples or perhaps a wider group of his followers to be a bit afraid at the pace and determination he was showing. And they probably have reason for fear, as Jesus shares for the third and final time what is coming not too many days from now, once he enters Jerusalem. This is the most detailed of Jesus’s description of his coming death and resurrection that Jesus has given. Jesus’s purpose is going to be sacrifice and death, and he is making sure that it is clear it will not be in any way pleasant. He also makes clear this time who will be doing the crucifying. The chief priests and scribes will actually send Jesus to the Roman Gentile governor to be put to death. This is exactly what happens in order to have Jesus crucified since the Jewish leaders could not have anyone crucified. And we see the soldiers at the crucifixion mocking him and spitting on him. By Jesus prophesying this in so much detail that even the actions of the soldiers are accounted for, it makes it that much more meaningful when we read about the first non-disciple to recognize Jesus’s true identity in Mark 15. **Mark 15:39 says, And when the centurion, who stood facing him, saw that in this way he breathed his last, he said, “Truly this man was the Son of God!”** But before getting to that point, there was a lot to go through. And his closest

followers, while believing he was the Messiah, continued to reject the vision of a Messiah that he himself was proclaiming. In all three cases of Jesus explaining his upcoming death to the disciples, the account is followed by the disciples focusing on their self-interests rather than the sacrifice that Jesus is going to make. This time is no different.

And in this case what we see is that Jesus's disciples, **his followers, confuse power with his purpose.** Read verses 35-37. ³⁵ **And James and John, the sons of Zebedee, came up to him and said to him, "Teacher, we want you to do for us whatever we ask of you."** ³⁶ **And he said to them, "What do you want me to do for you?"** ³⁷ **And they said to him, "Grant us to sit, one at your right hand and one at your left, in your glory."** James and John are now the focus as they come to Jesus with a request that he put them in positions of authority and power beside him when he sets up his kingdom. Now, this response, and these words make no sense after what Jesus has just said. Of course we have seen this lack of understanding before. But if we think about what will happen at the beginning of chapter 11 as Jesus finally enters Jerusalem, it might make more sense why they seem to keep not hearing Jesus when he says he has come to die. When the disciples looked around, what Jesus was talking about made no sense, and could only happen if the crowds that were always near turned away from him. They could see no way that this would happen because in their minds, the crowds were on Jesus's side. Everywhere they went people wanted to see Jesus. As they enter Jerusalem, this will be confirmed in a big way by the crowds that welcome Jesus as their Messiah, but one who is made in their image and not the one God intends for them. They wanted the powerful king who would ride into the city as a conqueror, and from everything they can see that is exactly where Jesus was heading. So James and John believe that the Messianic kingdom is near and from their perspective, they deserve the two seats of power closest to Jesus. Of course, there were three in Jesus's inner circle, so they are cutting out Peter in their request. But they are not just making a slight at Peter. This is self-serving and callous act toward Jesus himself and really an offense to the rest of the disciples. Jesus's purpose was sacrifice, but these two disciples believed his purpose was power, and that by seeking power, they were following God's purpose. Notice that they were actually trying to honor Jesus. They were placing him at the center, which in their minds was his purpose. But in honoring Jesus, they wanted to honor themselves as well. In a dramatic way, James and John are illustrating for us a major problem that can exist even today in the church. Worship and discipleship can be blended in ungodly ways with self-interest and pride. Or even worse, self-interest and pride are masked as worship and discipleship. An example of what I mean by this is an Elder who simply wants what in his mind is the glory of leadership, who brings attention on himself and feeds his ego in the way he leads in the church.

What will become clear after Christ's death and resurrection is that God's kingdom he is beginning to build on earth is not based on power and control, but on service and giving. Even today given the size of some church "empires" I would say that we have forgotten that or misunderstood that. What Constantine started that hundreds of years later would result in a powerful earthly church that even installed kings and rulers, and built massive buildings of gold and precious art called cathedrals, was not the beginning of the kingdom that Jesus was establishing. While one day, the fully realized kingdom of God will exist in the presence of his true glory for all eternity, here on earth the kingdom of God is not built on human power, but sacrifice and service. The reason for that lies in the fact that the kingdom that Christ began came about by sacrifice, not by power.

Christ would not conquer Roman armies, but would secure redemption and freedom from sin by his sacrifice of himself on the cross. It seems ironic that 400 years later, Roman soldiers would take up that cross and use it to extend power across the continent. Satan would twist God's kingdom and mislead millions into thinking that the path to God's purpose was power.

Instead as this passage concludes, we see Jesus tell us his purpose in his own words. Let's read verses 38-42. ³⁸ Jesus said to them, "You do not know what you are asking. Are you able to drink the cup that I drink, or to be baptized with the baptism with which I am baptized?" ³⁹ And they said to him, "We are able." And Jesus said to them, "The cup that I drink you will drink, and with the baptism with which I am baptized, you will be baptized, ⁴⁰ but to sit at my right hand or at my left is not mine to grant, but it is for those for whom it has been prepared." And when the ten heard it, they began to be indignant at James and John. ⁴² And Jesus called them to him and said to them, "You know that those who are considered rulers of the Gentiles lord it over them, and their great ones exercise authority over them. ⁴³ But it shall not be so among you. But whoever would be great among you must be your servant,^[a]⁴⁴ and whoever would be first among you must be slave^[b] of all. ⁴⁵ For even the Son of Man came not to be served but to serve, and to give his life as a ransom for many." The primary difference between this third and final of Jesus's prediction of his death and the first two is that he clearly tells the purpose of his coming death and resurrection. Right here in verse 45, Jesus declares that **vicarious sacrifice is his purpose**. The word vicarious means done on behalf of or in place of someone else. That is the type of sacrifice that Jesus would make. It would be a sacrifice "as a ransom for many." But what leads to this declaration of his purpose, is his answer to these two disciples. James and John and actually the rest of the disciples as well, believed that Jesus's purpose was power so they were more than happy to share a place in that purpose. They had no idea what they were answering when they said they could drink from the same **cup** and endure the same **baptism** as Jesus could. They did not understand that the path to power led through persecution and death. And it would not even be deserved punishment and crucifixion for any crimes of his own, but a sacrifice that he would willingly make, a **cup** that he would willingly drink from for sinners like us. In just a few chapters from now in [Mark 14:36](#), Jesus would pray to the God the Father, "Abba! Father! All things are possible for You; remove this cup from Me; yet not what I will, but what You will." Jesus was going to do the will of His Father by dying on the cross, by accepting that cup. And Jesus was teaching these misguided disciples that if they would follow him, they would drink the same cup of suffering, because they too would be following the will of the Father.

They did not know it yet, but all of the disciples other than John would die and sacrifice their lives to tell people that Jesus died to save them from their sins. Rather than a promise of power, Jesus said the only guarantee in their life of following Jesus was a life of suffering. The positions on either side of him even in the ultimate resurrection in Heaven were not his to give, but we have the opportunity as followers of Christ to share in his suffering. The apostle Peter, who you will remember is the one whose words Mark is mostly recording for us would later write about the way we should look at this suffering, though. [1Peter 4:12-13](#) says, [12Beloved, do not be surprised at the fiery trial when it comes upon you to test you, as though something strange were happening to you. 13But rejoice insofar as you share Christ's sufferings, that you may also rejoice and](#)

be glad when his glory is revealed. James and John thought that sharing in some of Jesus's power would bring joy for them, but the Holy Spirit makes clear through the apostle Peter that it is sharing in Christ's sufferings that ultimately brings joy. To James and John, Christ's words denying the request must have hurt, especially when he seemed to imply he would give them suffering instead. But they did not understand how foolish their request was. None of us can ever sit in the place of glory besides Jesus. Can you imagine how our lives would be if God actually gave us everything we asked for? Not all of our requests should be granted. God gives us what we need, and what will most glorify himself, and be for our ultimate good, but perhaps not our short term enjoyment.

The other disciples are of course understandably angry when they hear what James and John were talking to Jesus about. But Jesus uses the occasion to make sure that not only James and John understand the purpose of Christ as sacrifice, but all the disciples understand this truth. It's not that the other disciples were any less concerned with their own glory than James and John, they had just not voiced their desire in the same way. Jesus makes it clear that there is no place that the ethics of the kingdom he is establishing clash with the ethics of the world than in how we view power and authority. In verse 42, Jesus shows the world's way, "You know that those who are considered rulers of the Gentiles lord it over them, and their great ones exercise authority over them. To the world power is for selfish gain at the expense of others. Is Jesus saying that this is always the way everyone acts in this world? Of course not. But throughout society and history, the old adage seems to be true... *"power corrupts and absolute power corrupts absolutely."* But for the follower of Christ, there is a different use of power and authority, Verse 43 **But it shall not be so among you...** The difference that Jesus commands for his follower as that verse continues says, **...whoever would be great among you must be your servant,⁴⁴ and whoever would be first among you must be slave of all.** Do you want to lead...then serve. Sacrifice your rights for the sake of those you would lead...become like their slave. That is service and leadership in God's kingdom. And why do we do that? Because our Lord Jesus himself showed us by his own example. **⁴⁵For even the Son of Man came not to be served but to serve, and to give his life as a ransom for many.** The life of follower of Christ is a life of sacrifice, not power, because our Savior sacrificed himself for us. And for all of us in here today, what you need to know if you aren't yet a follower of Christ is that the only way our lives have any true meaning outside of this short life on earth is if we have been ransomed by that sacrifice of Jesus. **Hebrews 10:12** describes our ransom like this. **¹⁰And by that will we have been sanctified through the offering of the body of Jesus Christ once for all.** Sanctification is being made holy in God's eyes when he declares us righteous or justifies us based on our faith in Jesus Christ. When we repent of our sins and follow Jesus as our Lord and Savior then he become our ransom. And in **Hebrews 10:17** he tells us that for those who he has ransomed **"I will remember their sins and their lawless deeds no more."** Will you follow Christ in a path of sacrifice? Are you willing to be perpetually on the outside of society and even persecuted for his name? Christ gave all for us, what are we willing to sacrifice for him? Let's pray.